

中国農民はなぜ貧しいのか*



河原 昌一郎

一見華やかな経済的躍進を続ける中国について、中国人自身がその虚像ぶりと病んだ社会の深刻な実態を暴き出し、描出する著書が最近日本で時々出されるようになった。これらの著書はややもすれば中国国内では発禁処分となり、ときには著者に不利益が及ぶ可能性もあるだろう。本書の著者は、中国南部の農村で生まれ、大学に入るまでは農民としての辛酸をなめてきたという。従って、本書は著者の中国農村での実体験が基礎となっており、それに加えてその後の実地調査や各種文献資料による考察をもとにして著わされたものである。本書では現在の中国農村の貧しくて低い生活水準、社会保障制度の不備による農村高齢者の困窮、都市住民と農民との差別、一人っ子政策の弊害、農村社会の無法地帯化等の現実が率直に記述され、政府の農村社会政策の無為無策ぶりとその矛盾を端的に問うものとなっている。現在の中国の各種の体制的制約の中で、中国政府の政策および中国社会の現実について敢えて仮借のない批判的検証を行った著者の勇氣にまず敬意を表することとした。

本書は中国農村と農民の生活実態をできるだけありのままに紹介することが主眼とされており、貧困の要因等についての経済的分析を行ったものではないが、中国農村の貧困は中国政府による都市と農村の差別化政策に起因しているというのが著者の一貫した立場である。政府の差別化政策によって中国では都市と農村の2元世界が現出しており、甚だしい格差がある。そしてこの2元世界を固定化

しているものが国民を「城鎮戸籍」と「農村戸籍」に2分する戸籍制度である。この戸籍制度によって、農民は「二等公民」とも言える差別的な扱いを受け、社会的に上昇する道はほとんど閉ざされている。近年、全国各地で戸籍管理制度の改革が進んでいるが、これらの改革は都市住民の利益を最大限に配慮したものであり、特に大都市への移住は農民には無縁であるとして著者は批判的である。

社会保障制度や医療保険制度についても、都市部では政府の財政補助もあり一定の整備がなされているが、農村は未整備のままである。農村では、従来から「五保戸」（食事、衣類、住宅、医療、葬儀が保障される貧困戸）の制度があるが、財政的問題から「五保戸」に認定されても十分な保護が受けられない。また、土地は農民の老後保障にならないと著者は言う。土地収益の下落と商品経済の浸透によって土地収益だけで生活することは農村においても不可能になっているという。

農村高齢者困窮の問題は、一人っ子政策によって増幅されている。一人っ子政策は、農村の高齢化の到来を早め、新生児の男尊女卑志向によって農村男女比に異変をもたらしている。また、高齢者への扶養意識の減退を背景として、親が子に扶養を請求して扶養契約を締結する「契約養老」の実態が詳しく紹介されているが、これなどは日本に見られない中国農村社会特有の現象であろう。

以上のように本書は中国農村の社会保障の問題を軸として、その実態や課題を指摘し、一貫して都市農村の2元政策を批判するものとなっている。ただし、中国農村の貧困は、非合理的な社会的伝統、因習、権利意識の低さ等の発展途上国に共通した各種の要因も考えられる。「中国農民はなぜ貧しいのか」というタイトルに直接答えるためには、2元政策だけではなく、こうした要因と貧困との関係に関する分析も必要だったのではないかと思う。

注. ^{おうぶんりょう}＊王文亮『中国農民はなぜ貧しいのか』、光文社、2003年7月、380頁。